

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南信州山岳文化振興事業
事業主体 (連絡先)	南信州山岳文化伝統の会
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,457,859 円

事業内容

飯田山岳会によるヒマラヤ・シャルパチョム登頂60周年にあたる本年、これからの事業展開に先立つステップとして「山と人」についての地域の関心を高めるため、地域の山岳に関する展覧・展示会を行うとともに、有名人の講演会を含む山岳文化シンポジウムを行った。

また、赤石山脈の麓で、これからの事業展開の拠点となる遠山郷において登山関係者以外の方々の関心を高めるための無料の講演会を行った。なお、予定していたネパールランタツツアーは世界的な新型コロナウイルスによる感染症の拡大の影響を受け、中止とせざる負えない状況となった。

事業効果

- ①山岳文化シンポジウム(301人)と展示会・展覧会(594人)により改めてこの地域の山岳文化の歴史と奥深さを知る人が増えた。
- ②上記の展示会・展覧会と遠山郷での出前講座(75人)により周知できた。
- ③あらゆるイベントで南アルプスでなく「赤石山脈」を用いることで、広く周知することができた。
- ④シンポジウム参加を地域の全高校の登山部に呼び掛けた結果、10数人の参加があった。

今後の取り組み

(エコ・観光登山プログラムの開発と整備計画の立案)

一部のルートの踏査を終えたが、残る想定ルートの踏査とそれに基づくルート整備計画を立案する。

(地域との合意形成)

登山関係、ゲストハウス、食品製造業者などと一定の理解・協力関係は構築しつつあるが、更に広範な地域住民・事業者の協力を得る必要がある。特に、災害に弱い車道に頼らない登山の楽しみ方があること、林業遺産を使ったルートは魅力的な観光素材であること等の理解を広めていく。

(行政機関との折衝、許認可及び協働)

許認可が絡む国の省庁との本格的な折衝はこれからの予定。早めに折衝を開始し、許認可の目途をつける必要がある。将来のビジターセンターの設置については既存の施設の利活用を中心に飯田市と協議しつつ目途をつける。



【遠山郷での講演会(大蔵喜福氏)】

【目標・ねらい】

- ①地域の登山文化の歴史を広める
- ②地域の大自然(原生林)の素晴らしさの発信・告知とエコ・観光登山の可能性の周知
- ③南アルプスの旧名・赤石山脈を用いた発信と地域ビジターセンター構想の必要性の周知
- ④子供たちを中心に教育の現場での講演会、登山実践、講習会へ講師・ガイドの派遣

※自己評価【A】

【理由】

山岳文化シンポジウムでは多くの参加者を得て初期の目的を果たせたとともに、今後の事業展開の拠点となる遠山郷において開催した講演会&ワークショップを通じて、今後の活動についての基盤を作ること